

第2回 裾野市道の駅整備推進協議会を開催しました。

○令和7年6月26日(木)に開催された第2回目の協議会は、まずは第1回協議会の振り返りを行いました。

○次に、追加で実施した高校生へのアンケート結果について事務局より説明があり、高校生は「勉強できるスペース」「SNS映え」「自然を活かした空間」「自分たちだけでなく“家族・他世代も楽しめる”場所」といった面での期待が高く、裾野市が持つ「自然・癒やし」が肯定的に評価される一方、「娯楽・利便性」の評価が低い傾向にありました。また、地域イベントへの参加など、自発的な地域参画への意欲も見られました。

○導入機能・施設については、利用者のニーズに応じた全ての機能や施設を導入するのではなく、優先順位と地域性が重要であり、他の成功事例を盲目的に模倣せず、裾野らしさと連携性を重視して、市民参加型のコンテンツを早期から企画すべきという提案がなされました。

○候補地については、事務局より、基本構想で挙げられている4エリアに対して交通量等、基本構想で設定した基本方針に基づく項目から評価した今後の検討の「たたき台」の説明がありました。

○需要予測については、事務局より、統計分析による想定来訪者数の試算、近隣の道の駅ふじおやまや道の駅すばしり並みの集客を見込めるとの予測が示されました。これに対し、委員からは、あくまでも統計的な予測であり、試算数に近づけるためには、施設の魅力や機能性を高めるなどの整備内容を精査していく必要があるのではないか、という意見がありました。

○全体として、多数の委員から、道の駅の「テーマの明確化」が最重要との指摘がありました。

また、「道の駅」単体で完結するのではなく、「まち全体の顔として機能するハブ的施設」として位置づけるべきという提案もありました。

○次回は、裾野市の道の駅にふさわしいテーマを検討し、そのテーマに合った導入機能や施設、施設配置等について話し合います。

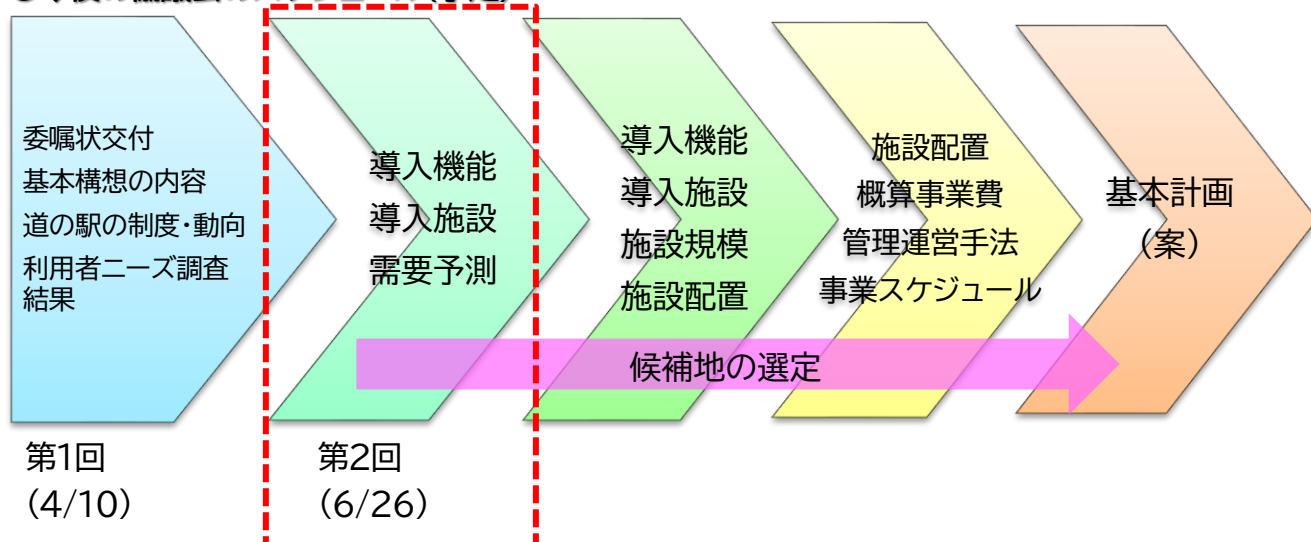
第2回の議事

- ① 第1回協議会の振り返り
- ② 利用者ニーズ調査(高校生アンケート)について
- ③ 道の駅の導入機能・施設について
- ④ 候補地について
- ⑤ 需要予測について



会議の様子

○今後の協議会のスケジュール(予定)



第2回 裾野市道の駅整備推進協議会を開催しました。

○委員から出た意見

- 道の駅にはテーマ性が重要。
- 明確な「体験」「一貫性」がリピーターを生む。
- テーマがあることで、訪問者にとってわかりやすく、印象に残り、商品開発や空間設計、プロモーション(SNS発信など)にも一貫性を持たせやすく、体験コンテンツと連動しやすく、リピーター獲得につながる。
- 魅力的な道の駅づくりには、企画段階での戦略的設計が重要。
- 富士山×SNS映えの可能性に注目。
- 「裾野の道の駅+富士山」・・・一緒にしか撮れない風景＝観光資源としての活用。
- 裾野の道の駅と季節ごとの富士山と組み合わせた景観。
- 観光客の集客には「映える仕掛け」が重要。
- コンセプトが周辺市町の施設整備と被らない工夫が必要。
- 裾野の道の駅単体ではなく、東部地域の道の駅との連携や役割分担の視点も必要。
- 周辺市町の施設整備計画等を意識し、裾野市独自の戦略的な構築を希望。
- 「建物の外観やテーマ性」による誘客の重要性。
- テーマに基づき道の駅を基点とした裾野市全体の連携が必要。
- 道の駅に、利用者のニーズに応じた全ての機能や施設を入れるのは現実的でない。
- “裾野らしさ”と“地域の課題”に合う施設を絞るべき。
- 高校生や市民の声を活かす柔軟な設計が求められる。

全体を通じて、次のような共通理解が深まりました。

- ✓ 裾野市の道の駅のテーマの具体化
- ✓ テーマが明確だと、導入機能や施設を絞り込みやすい



会議の様子